



校長室だより No. 8

(令和6年1月9日)

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

令和6年1月1日に石川県で震度7の地震が発生しました。このニュースを見聞きして、大変衝撃を受けられたことだと思います。1月4日現在、余震も続き、被害の全容が見えていない大変心配な状況です。被災されました皆さま方に心よりお見舞い申し上げます。

12月には、本校において起震車体験を行い、地域の地区長さんを含め2名の参加をいただきました。当日は、児童生徒、教職員ともに、地震の揺れを体感することができました。今回の報道を見聞きする中で、地震の脅威を自分事として重ねられているのではないかと思います。

さて、若草3校では、本年度から「学びをかさね、つなげ、ひろげる学校づくりプラン」の中期計画（令和5～7年度）をスタートしました。今回は、その重点課題の柱である「教育課程の充実」と「教員の専門性の向上」を目指して、教員が取り組んだ研修を紹介します。

保護者のみなさまにおかれましては、本学期も引き続き、学校の取組へのご理解、ご協力をお願いします。



講師を招いて『全体研修』の実施 (令和5年12月6日(水))【本校】

本校では、令和5年12月6日(水)に、文教大学教育学部の北川貴章先生を講師としてお招きし、全体研修を実施しました。

研修では、これまでに高知若草特別支援学校で取り組んでいる「自立活動を主とした教育課程」と「知的代替の教育課程」における教科について、学習指導要領の解釈も踏まえて、本校の取組の検証を行いました。そして、教科の見方・考え方を学び、子どもの教育的ニーズを捉えて取り組む授業の在り方を学び、教科の連続性や自立活動と教科の関連性について示唆をいただきました。

午前中は、令和5年11月29日(水)に「全体研修」で行った知的小I段階に向かう中学部生徒の数学と国語に関する事例検討の協議内容について、助言をいただき、考え方を整理することができました。次に、小学部の「生活科」の授業を参観していただき、教科としての見方・考え方のアドバイスをいただくことができました。その後も、次年度以降の本校の取組の方向性について、一緒に考えていただき、適切な助言をいただけたことが心強かったです。今後も、北川先生には、継続して支援していただきます。

本日のまとめとして、『各教科の見方・考え方』～学習指導要領の教科が意味しているもの～という演題で講演をいただきました。

子どもの教科の課題をどう見立て、どのような指導を考えていくか。そして、今、取り組んでいることが将来にどうつながっているか。その先に何があるか。表面上なかなか見えてきづらい子どもの背景を見取りながら、年間指導計画や単元計画を作成し、日々の授業における研鑽を重ねることが大切です。私たち自身が、「良き学び手」になれるよう取り組むことが大切だと実感しました。

【講師紹介】文教大学 准教授 北川貴章 先生
平成28年 独立行政法人国立特別支援教育研究所 主任研究員
令和5年 文教大学 教育学部 准教授
※令和3～4年度 本校が、同上 研究所の所外研究協力機関として委嘱されていた当時から、北川先生には、研究の指導・助言を受けています。

講師を招いて『校内研修会』の実施 (令和5年12月6日(水))【土佐希望の家分校】

土佐希望の家分校では、学校経営力アップ事業を活用し、福岡大学人文学部の徳永豊教授に研修をご依頼したところ、快く引き受けくださり、年間4回のコンサルテーションと2回の講演を計画し実施しました。最初のコンサルテーションでは、本校の実情を伝えつつ現状の課題について検討しました。1回目は8月4日に「障害の重い子供より良い教科学習を目指して」をテーマに教科学習についての講演をしていただきました。例えば国語・算数(数学)の指導において、国語は人とのつながり、算数(数学)は物とのつながりといった視点を見出し、学習内容を定めていく必要があることや徳永先生が出版されている『障害の重い子どもの発達理解ガイド』で紹介されているSスケールの見方などの説明と、併せて本校の教科学習や合科、各教科等を合わせた指導の学習形態についてどのように考え、どのように組み合わせるかなどをご示唆いただきました。

12月6日、2回目の講演では同様のテーマで、より本校の教育課程や学習内容に合わせた講演をしていただきました。1回目の講演の合科・各教科等を合わせた指導の考え方を本校の場合は、どうすれば有効で適切な指導や評価につながるかなど、より具体的な内容の話を行うことができました。本校の実情に合わせて示唆していただけたことで、細かく実態を把握し、目標を設定、そして適切な評価を行うことの重要性を改めて感じ、次年度の教育課程や学習形態について具体的なイメージが持てるようになりました。

【講師紹介】福岡大学 人文学部 徳永豊 教授
平成元年 独立行政法人国立特別支援教育研究所 所入所
平成20年 福岡大学人文学部 教授
平成26年 「障害の重い子どもの目標設定ガイド」を出版される。
※本書のSスケールは、本校の目標設定ガイドブック作成時に参考にさせていただきました。

『ICT研修』個別最適化な学びを支えるために【子鹿園分校】

子鹿園分校では、一人一人の学びやすさを追求するためのICTの活用への取組が年々加速しています。情報・ICT推進係が実施する校内研修などにより、サポートが必要な児童生徒のためのGoogle for Educationの使い方を全教員で確認し、授業の中でも意見交換の場としてのホワイトボード機能の活用(jamboard)や、家庭学習やテストについてもスライドやアンケート機能を活用する等ICT化が進んでいます。

教員研修では、「SAMRモデル」を確認し、S(代替)、A(拡張)、M(変容)、R(再定義)に向けて児童生徒に主体性を持たせる指導について学んでいます。筆記用具やカメラの代わり(S代替)としての活用はもちろんのこと、生徒にあわせて作成したドリルを宿題にしたり(A拡張)、考えをまとめるツールとして活用したり(M変容)することで、手段の選択を児童生徒自身が決める(R再定義)場面も増えてきています。また、県内外の特別支援学校との合同授業にも取り組みました。より効果的に学ばせる手法についても教員同士が学び合う機会が日常的に増えたことも成果の一つです。



※遠隔合同授業は、筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校と青森県立青森第一養護学校と、子鹿園分校の3校間で中学1年の「社会」を一緒に取り組みました。生徒の対話も進み、深い学びにつながりました。